

# 富良野市における調査結果の概要

令和3年11月 富良野市学力向上推進プロジェクト

令和3年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、第1次富良野市教育振興基本計画の基本理念「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」のもと、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた子どもたちの着実な育成を基本に「すべては子どもたちのために」を合い言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

全国学力・学習状況調査の結果は、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、今後の本市の教育施策や学校の取組に生かしながら、本市教育を一層充実させてまいります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

今後も、これまでの取組の成果を生かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

なお、この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながることはないようご理解をお願いいたします。

## 1 調査の概要

### ◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### ◆調査日

令和3年5月27日（木）

※ 新型コロナウイルス感染症による影響により調査日が例年より約1か月後ろ倒しになっている。

### ◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

### ◆調査事項

- 児童生徒：教科調査(国語、算数・数学)、質問紙調査
- 学 校：質問紙調査

## 2 教科に関する調査結果の概要について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、「平均正答率を全国平均以上にする」ことを目標に掲げております。

### 【小学校】

国語は、全国平均正答率を下回りました。算数は、全国平均正答率を下回りました。

### 【中学校】

国語は、全国平均正答率と同等※でした。数学は、全国平均正答率を下回りました。

※ 全国平均正答率との差が3ポイント以内

小学校第6学年では国語、算数で全国平均正答率を下回り、中学校第3学年では国語で全国平均正答率と同等、数学では、全国平均正答率を下回る結果になりました。

しかし、小学校第6学年と中学校第3学年の経年変化の分析では、国語、算数・数学ともに全国平均正答率に近づくなど大きく改善傾向にあることが明らかになりました。

このことは、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、学校司書の配置による読書活動の推進、小中連携の取組、キャリア教育の推進、小規模校での個別最適化された学びの充実、教職員の加配による指導方法工夫改善の取組、特別支援教育支援員の配置、長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着、「イングリッシュキャンプ」等による外国語教育の推進、演劇手法を取り入れたワークショップによるコミュニケーション能力の向上、デジタル教科書、電子黒板、タブレット端末等のGIGAスクール構想に基づくICT活用の推進による成果であると考えられます。

この調査結果を踏まえ、学力向上に向けた取組を、『第1次富良野市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)』を基軸とし、充実した教育活動が展開できるよう推進していきます。

### 『第1次富良野市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)』

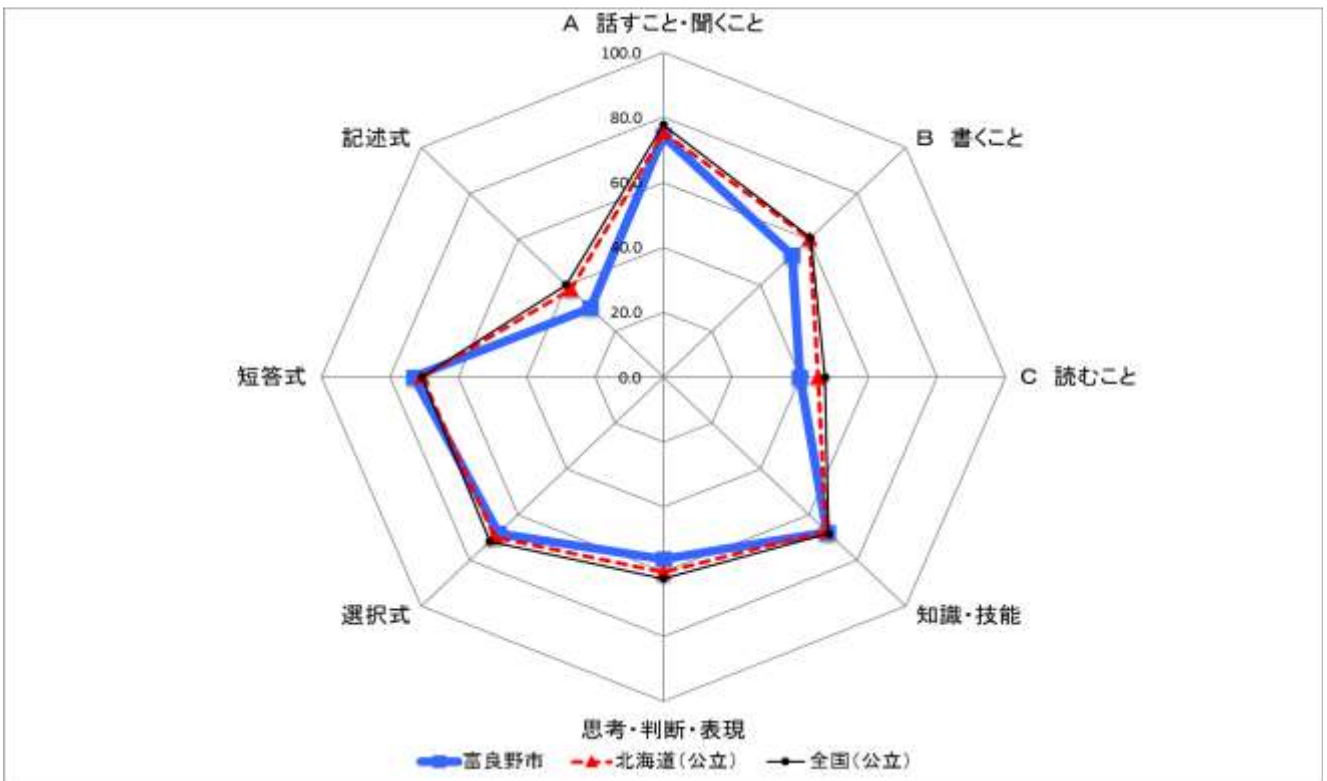
第1次富良野市教育振興基本計画(令和3年度～令和7年度)は、「自立と共生の未来を拓く、心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。

子どもたちが変化の激しい時代を生き抜く力を育み、生涯にわたって活躍できる人材の育成が求められていることから、第1次富良野市教育振興基本計画を策定しました。

### 3 各教科の領域別の状況

#### 小学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したものの



#### 〈調査結果のポイント〉

- 知識・技能については、全国の平均正答率と同等となっています。
- 思考力・判断力・表現力等については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を下回っています。

#### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

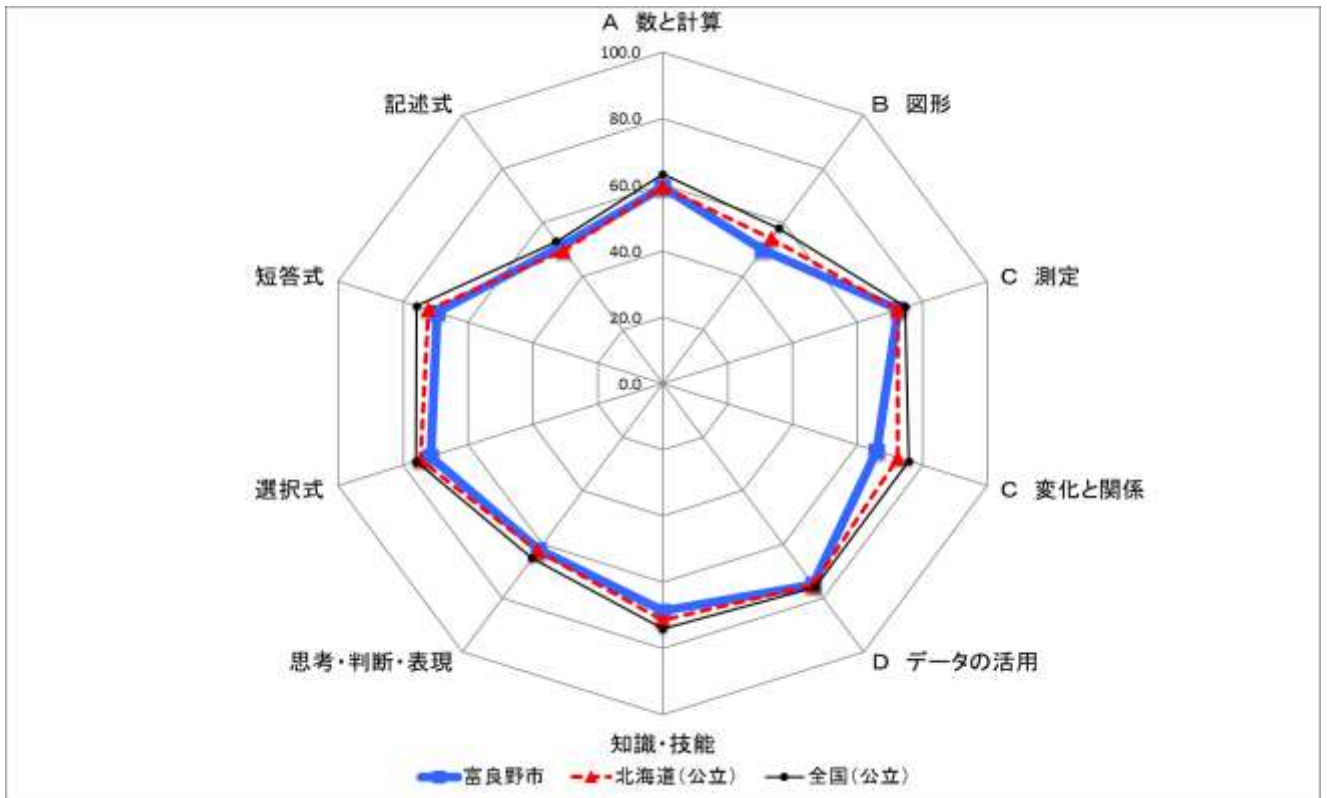
- 説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることに課題が見られます。



説明や解説などの文章を読み、分かったことや考えたことをまとめる際に、高学年においては、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることが重要です。また、単一の情報のみに基づくのではなく、目的に応じて文章と図表などの情報を関係付けて検討するなど複数の情報を結び付けて考えを形成することが求められます。

## 小学校算数

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したものの



### 〈調査結果のポイント〉

- ・領域別の問題では、「A 数と計算」「C 測定」「D データの活用」の領域で全国平均正答率と同等であり、「B 図形」「C 変化と関係」の領域で全国平均正答率を下回っています。

### ● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

- 図形の計量について、基本図形の面積の求め方について理解していることに課題があります。

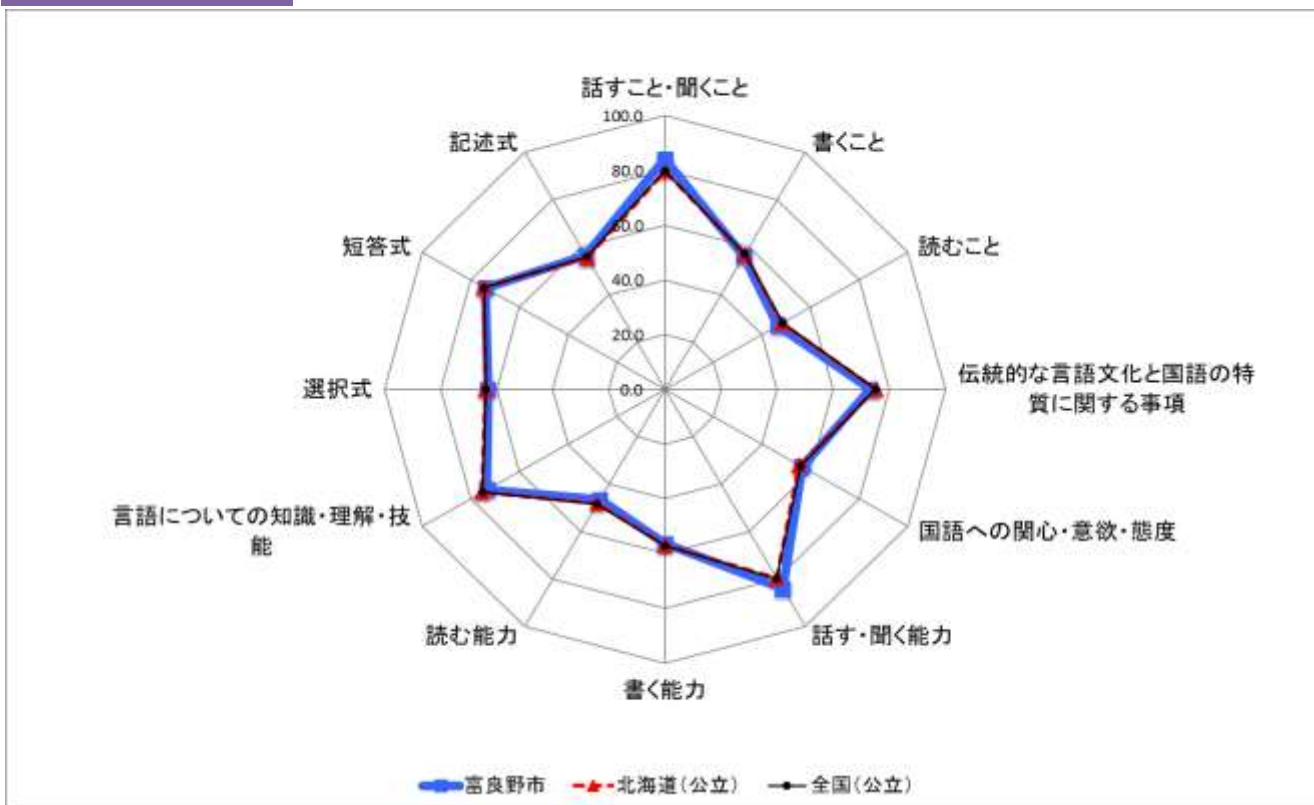


図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素などに着目して捉え、図形の計量について筋道を立てて説明することが重要です。

- 問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場合を理解したり、除法の結果の意味を解釈したりすることに課題があります。



算数の学習では、数量の関係に着目し、式に表して計算したり、計算を日常生活に生かしたりすることが重要です。また、計算の意味について、日常生活の場面に即して判断したり、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考えたりすることも重要です。



### 〈調査結果のポイント〉

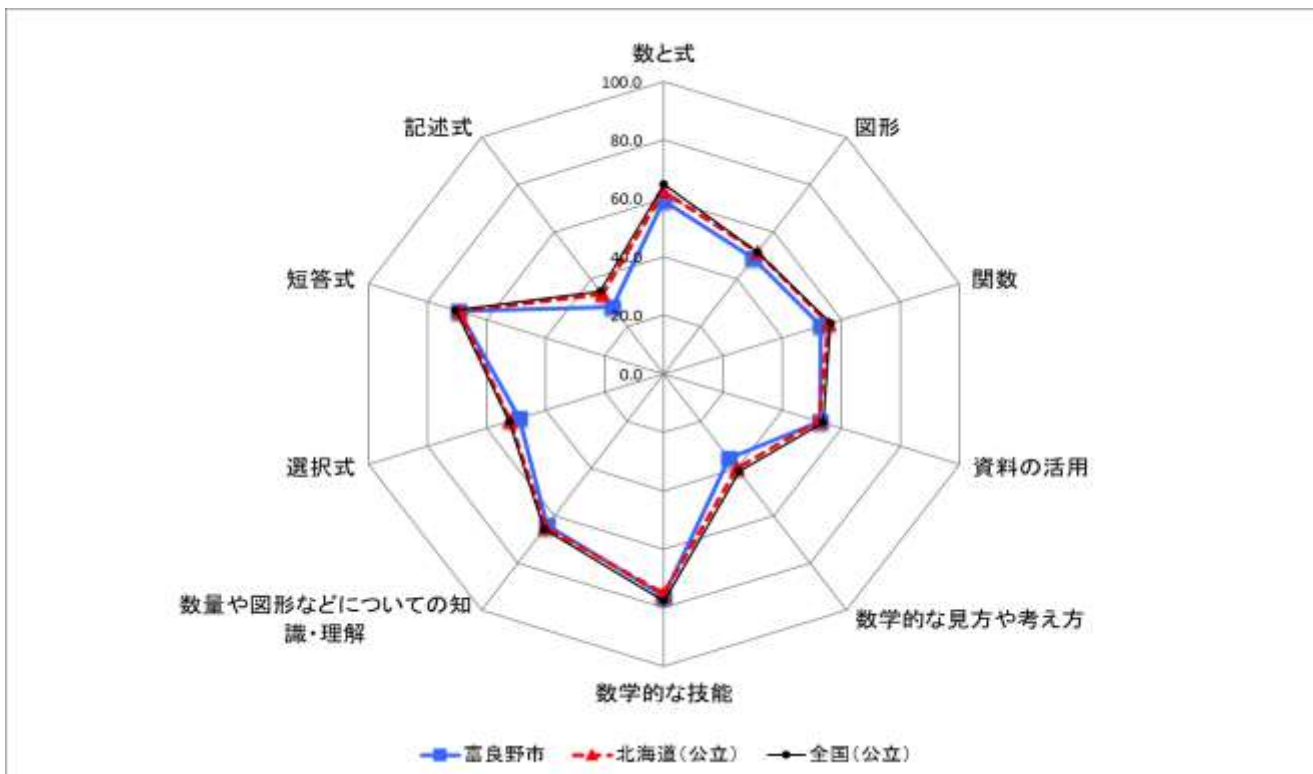
○領域別の問題では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率を上回り、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均正答率が同等となっています。

### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

○文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題があります。



読む目的や意図を明確にすることが大切です。また、読むことによって何を得て、どう活用するのかという意識をもち、本や文章などの内容や形態に応じて読む必要があります。



### 〈調査結果のポイント〉

○領域別の問題では、「図形」「資料の活用」の領域は全国平均正答率と同等であり、「数と式」「関数」の領域は全国平均正答率を下回っています。

### ●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

○発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。



数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立ち理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、発展的に考察することが大切です。

○データに基づいて不確定な事象を考察する場面において、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。



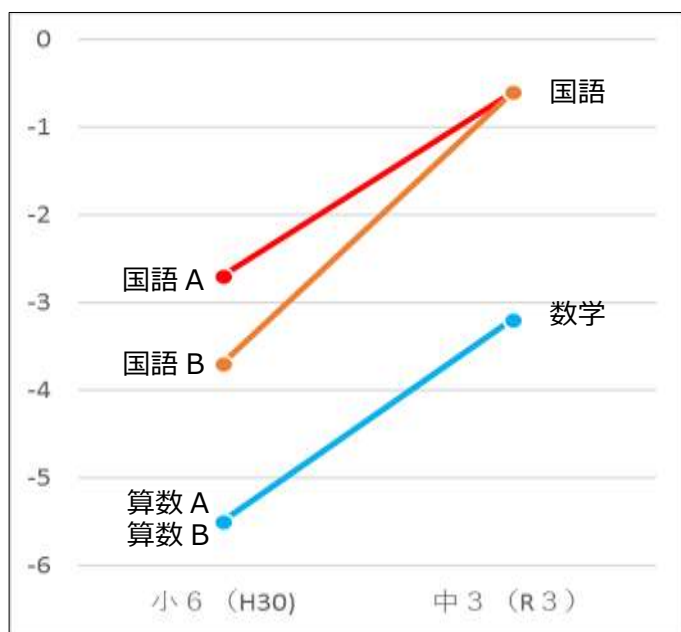
表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明する際、グラフや代表値を用いてデータの傾向を捉え説明することが大切です。

○図形の性質を考察する場面において、事象に即して解釈したことを数学的に表現することや解決の方針を立てることに課題があります。



予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることや条件を保ったまま図形を動かしても成り立つ事柄を見出すことが大切です。

## 小学校第6学年(平成30年度)と中学校第3学年(令和3年度)の調査の比較



現中学3年生が3年前の小学6年生で受けた調査(国語A・B、算数A・B)の平均正答率と全国平均正答率との差を比較してみました。小学6年生時点では、国語A・B、算数A・Bで全国平均正答率を下回っていました。今回の調査では、国語では同等、数学では全国平均正答率を下回るものの2ポイント以上改善しています。

背景には、生徒の頑張りはもちろんのこと、中学校での教科担任制による専門的な指導に基づく授業展開によるところが大きいと考えられます。さらに、小中学校を通じて理解の程度に

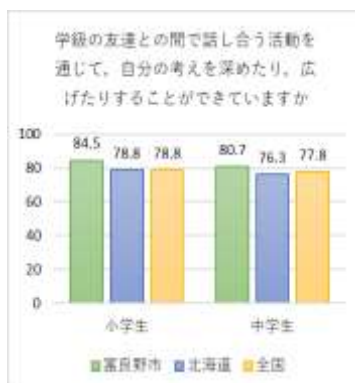
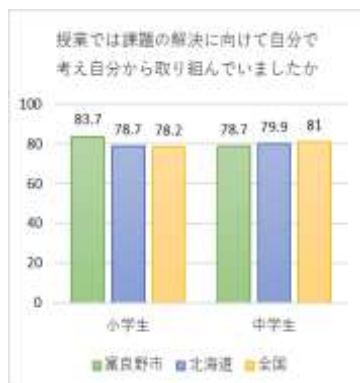
応じたきめ細かな指導や「見通しや振り返り」を位置付けた日常の授業改善、年間指導計画に位置付けた「チャレンジテスト」の効果的な活用、単元の終末に「まとめの時間」を設定した教育課程の改善・長期休業中の「学習サポート」、家庭との連携による学習習慣や生活習慣の改善等の着実な取組が各小中学校に浸透してきていることが挙げられます。

## 4 質問紙調査結果（児童生徒、学校）

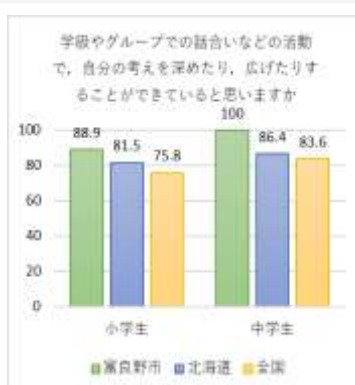
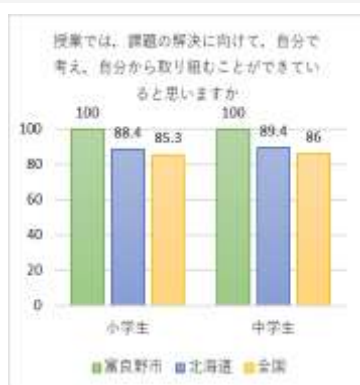
※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。

### （1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

「児童生徒質問紙」



「学校質問紙」



◆「授業では課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 83.7%、中学生では、78.7%です。全国と比較して小学生は高い値ですが、中学生では低い値です。全国調査の結果から、この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られています。

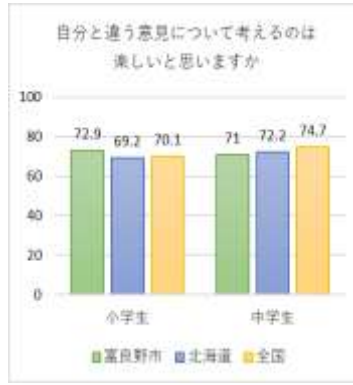
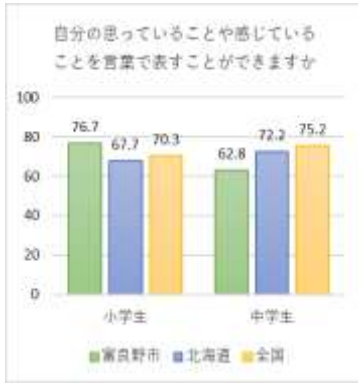
また、学校質問紙における同様の質問に肯定的に回答した小中学校の割合は 100%であり、全国調査の結果からもこの質問に肯定的に回答した学校ほど、全ての教科において平均正答率が高い傾向が見られました。

◆「学級の友達とも間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができてきますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 84.5%、中学生では、80.7%です。全国と比較して小学生、中学生ともに高い値です。全国と比較して高い傾向にあり、授業実践が推進されていることがうかがえます。

◆「学級の友達とも間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができてきますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 84.5%、中学生では、80.7%です。全国と比較して小学生、中学生ともに高い値です。

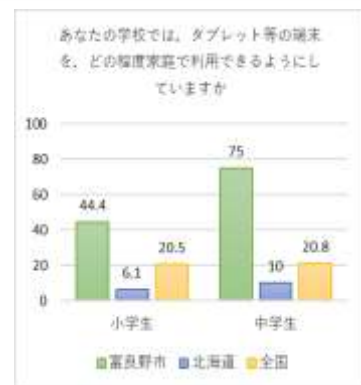
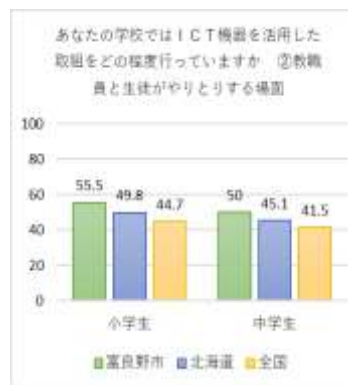
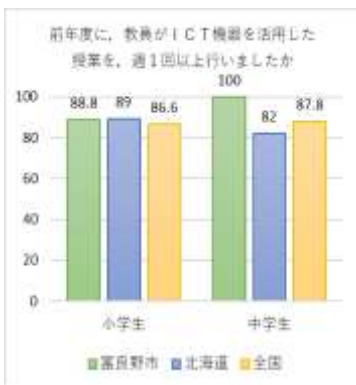
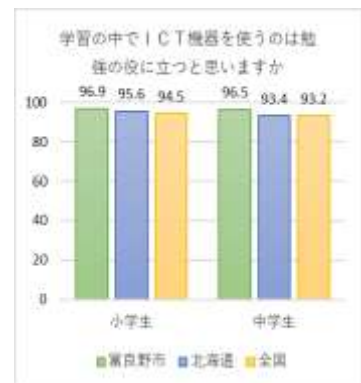
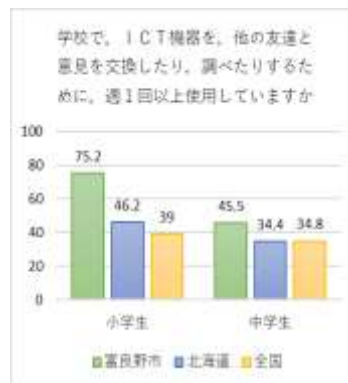
◆個に応じた指導（個別最適な学び）の状況について、「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は小学生では 88.3%、中学生では、69.7%です。全国と比較して小学生は高い値ですが、中学生では低い値です。全国調査から「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒ほど、「国語、算数・数学の勉強が好きだ」と回答した割合が高い傾向が見られています。



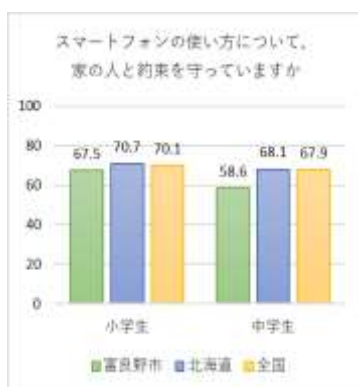
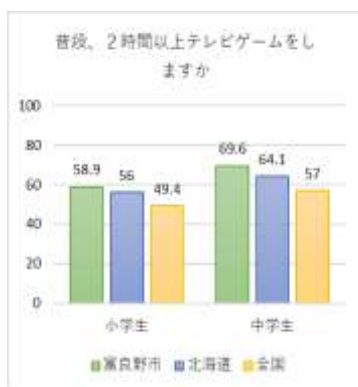


- ◆「自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では 76.7%、中学生では、62.8%です。全国と比較して小学生は高い値ですが、中学生では低い値です。
- ◆「自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小中学生ともに 70%以上です。
- ◆小中学生の約 3 割は「自分の思っていることや感じていることをうまく言葉で言えない」「自分と違う意見について考えるのは楽しくない」ことを踏まえて、授業や話し合い活動を行う必要があります。

## (2) ICTを活用した学習状況

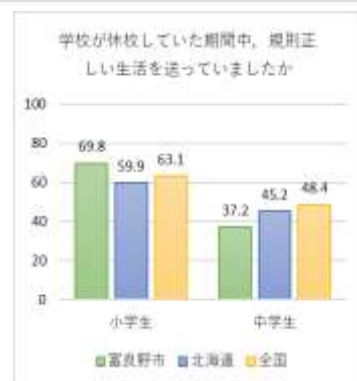
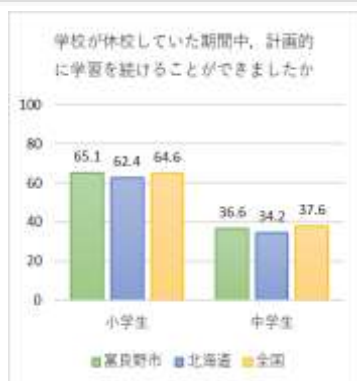
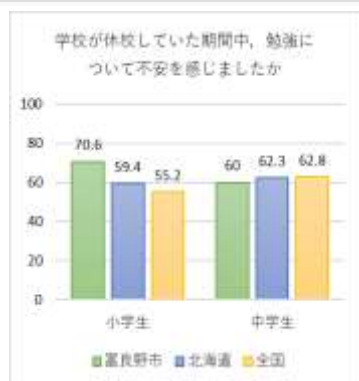


- ◆ICTを活用した授業の頻度は増加しており、「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した小中学校の割合は80%以上です。児童生徒の活用について、小学生で全国と同等ですが、中学生では、使用頻度が低い値です。
- ◆「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生では96.9%、中学生では96.5%であり、高い割合となっています。
- ◆「あなたの学校ではタブレット等の端末をどの程度家庭で利用できるようにしていますか」との質問について、毎日または時々持ち帰り利用させている学校は、小学校で44.4%、中学校で75%であり、全国と比較して高い傾向にあります。



- ◆「普段（月曜日から金曜日）、2時間以上テレビゲーム（携帯式のゲーム、携帯電話、スマートフォンを使ったゲームを含む）をしている児童生徒の割合は全国と比較して高く、小学生で58.9%、中学生で69.6%です。全国的に1日当たりのテレビゲームの時間が増えるほど、各教科の平均正答率は低い傾向にあります。
- ◆「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学生ともに全国と比較して低い値です。小学生では30%以上、中学生では40%以上守れていない状況があるため、家庭でのルールや時間の使い方などを考える必要があります。

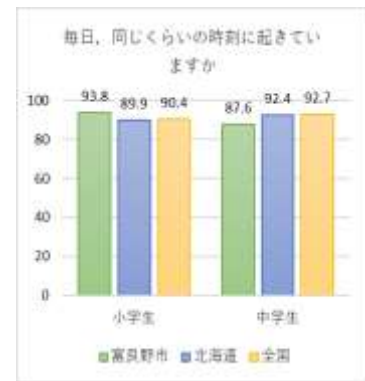
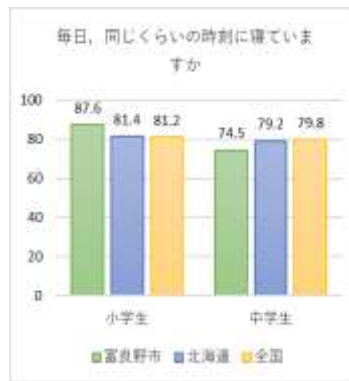
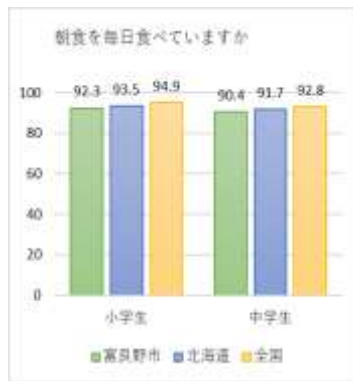
### （3）新型コロナウイルス感染症の影響による学習状況



- ◆「学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で70.6%、中学生で60%であり、高い割合となっています。
- ◆「学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で65.1%、中学生で36.6%です。学習課題を適切に設定し、オンライン学習を充実させるなどして、学校と家庭が連携して児童生徒が計画的に学べるよう支援する必要があります。
- ◆「学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で69.8%、中学生で37.2%です。計画的に学習することと規則正しい生活は同様の傾向が見られることから、学校が休校の際の学習や規則正しい生活を一体的に取り組むなど1日の過ごし方を考えていく必要があります。

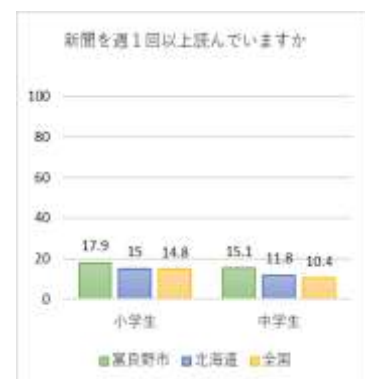
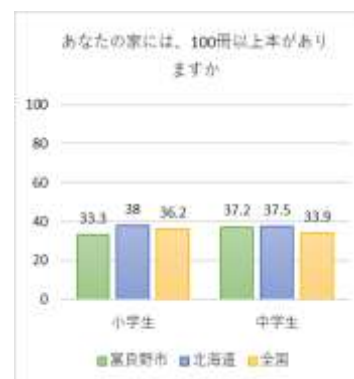
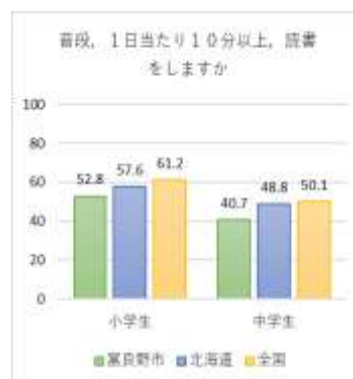
## (4) 基本的な生活習慣

「児童生徒質問紙」



- ◆「朝食を毎日食べていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 92.3%、中学生で 90.4%です。全国と比較して小中学生ともやや低い値です。また、毎日朝食を食べていない児童生徒がいることも分かります。学校においては、食に関する指導の充実を図るとともに家庭や地域と連携して食に関する体験活動や食のバランスなど食育を進めるなど家庭への啓発も積極的に行う必要があります。
- ◆「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で 87.6%・93.8%、中学生で 74.5%・87.6%です。いずれも、小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。中学生では、特に学習及び生活のリズムを整え、規則正しい生活を送れるよう望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに、生徒自身が自分の生活を見つめ直し、主体的に活用できるよう学校と家庭が連携して支援していく必要があります。

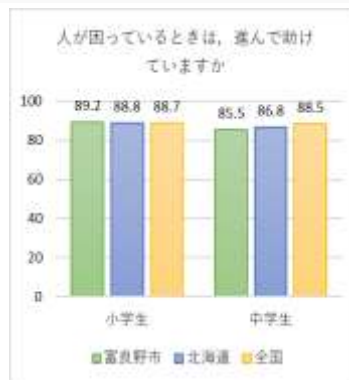
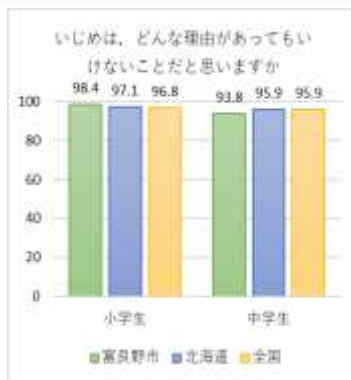
「児童生徒質問紙」



- ◆「普段、1日当たりどのくらい読書をしていますか」との質問について、10分以上と回答した児童生徒の割合は、小学生で 52.8%、中学生で 40.7%です。全国と比較して小中学生とも低い値です。市内全小中学校に学校司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図っています。今後も、児童生徒の読書週間の確立に努めるとともに読解力の育成や情報勝代能力の育成の場としての活用を進める必要があります。
- ◆「あなたの家ではどのくらい本がありますか」との質問について、100冊以上と回答した児童生徒の割合は、小学生で 33.3%、中学生で 37.2%です。全国と比較して小学生では、低い値ですが、中学生では、高い値です。学校においても読書習慣の確立に努めていますが、学校や市立図書館との連携（ブックトラック）、読み聞かせボランティアとの連携などを図り、多様な読書活動の充実を図る必要があります。
- ◆「新聞をどのくらい読んでいますか」との質問について、週1回以上と回答した児童生徒の割合は、小学生で 17.9%、中学生で 15.1%です。小学生、中学生ともに全国と比較して高い値です。学校図書館に新聞を置いたり、国語科や社会科の授業で活用したりするなどをして、情報を活用する能力の育成を推進する必要があります。

## (5) 規範意識

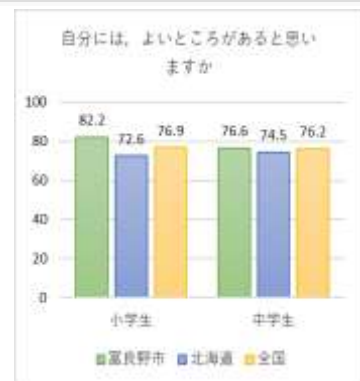
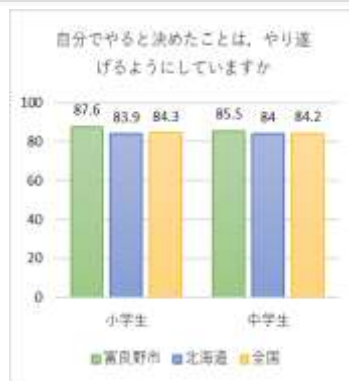
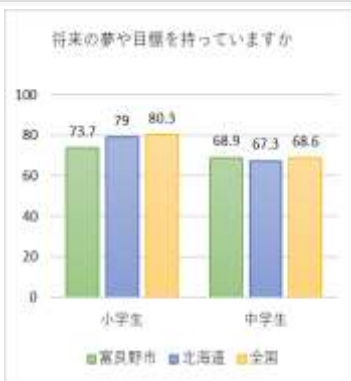
「児童生徒質問紙」



- ◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で98.4%、中学生で93.8%であり、高い割合となっています。また、小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。
- ◆ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で89.2%、中学生で85.5%です。また、小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。
- ◆ 「いじめは絶対に許されない」という意識を子どもたち一人一人がもつことが大切です。また、学校、保護者、地域、関係機関と連携し、未然防止の取組、いじめの早期発見、早期解消を図る必要があります。

## (6) キャリア教育・自己有用感

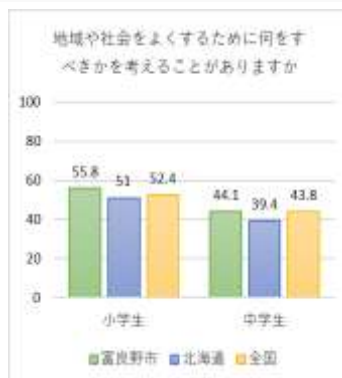
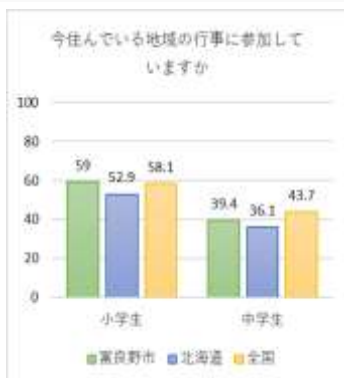
「児童生徒質問紙」



- ◆ 「将来の夢や目標を持っていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で73.7%、中学生で68.9%です。小学生では全国と比較して低い値ですが、中学生では全国と比較して高い値になっています。キャリア教育の充実を図り、「マイノート」の有効な活用により、自己有用感を高め、職業観、勤労観の育成を図る必要があります。
- ◆ 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で87.6%、中学生で85.5%です。いずれも、小学生、中学生ともに全国と比較して高い値です。
- ◆ 「自分には、よいところがあると思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で82.2%、中学生で76.6%です。いずれも、小学生、中学生ともに全国と比較して高い値です。自分で決めたことをやり遂げ、達成感や成就感を育むとともに自分の良さを自覚し、他人の役に立つ、他人に喜んでもらったという自己有用感の醸成を図ることができるよう教育活動全体の充実を図る必要があります。

## (7) 地域参加

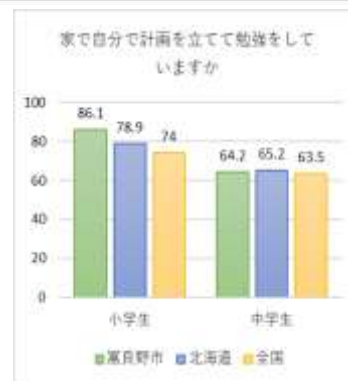
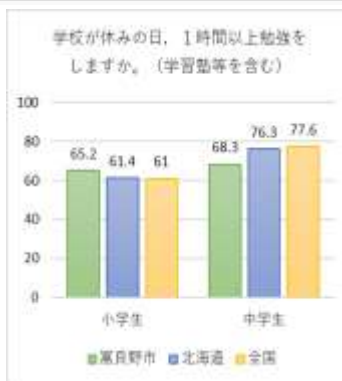
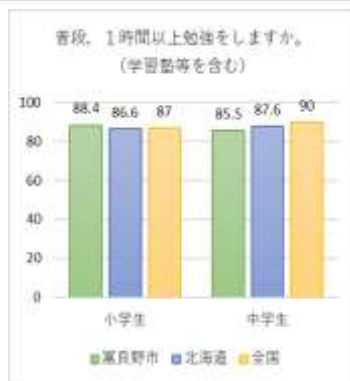
〔児童生徒質問紙〕



- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で59%、中学生で39.4%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。新型コロナウイルス感染症の影響で地域の行事が中止になっていることもあり、参加できる機会が減少していることも一因と考えられます。
- ◆「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で55.8%、中学生で44.3%です。小学生、中学生ともに全国と比較して高い値です。今後、コミュニティ・スクール、地域学校協働本部等をとおして、子どもたちが地域住民と積極的に関わる機会を増やし、地域への理解・関心を深めていく必要があります。

## (8) 家庭での学習状況

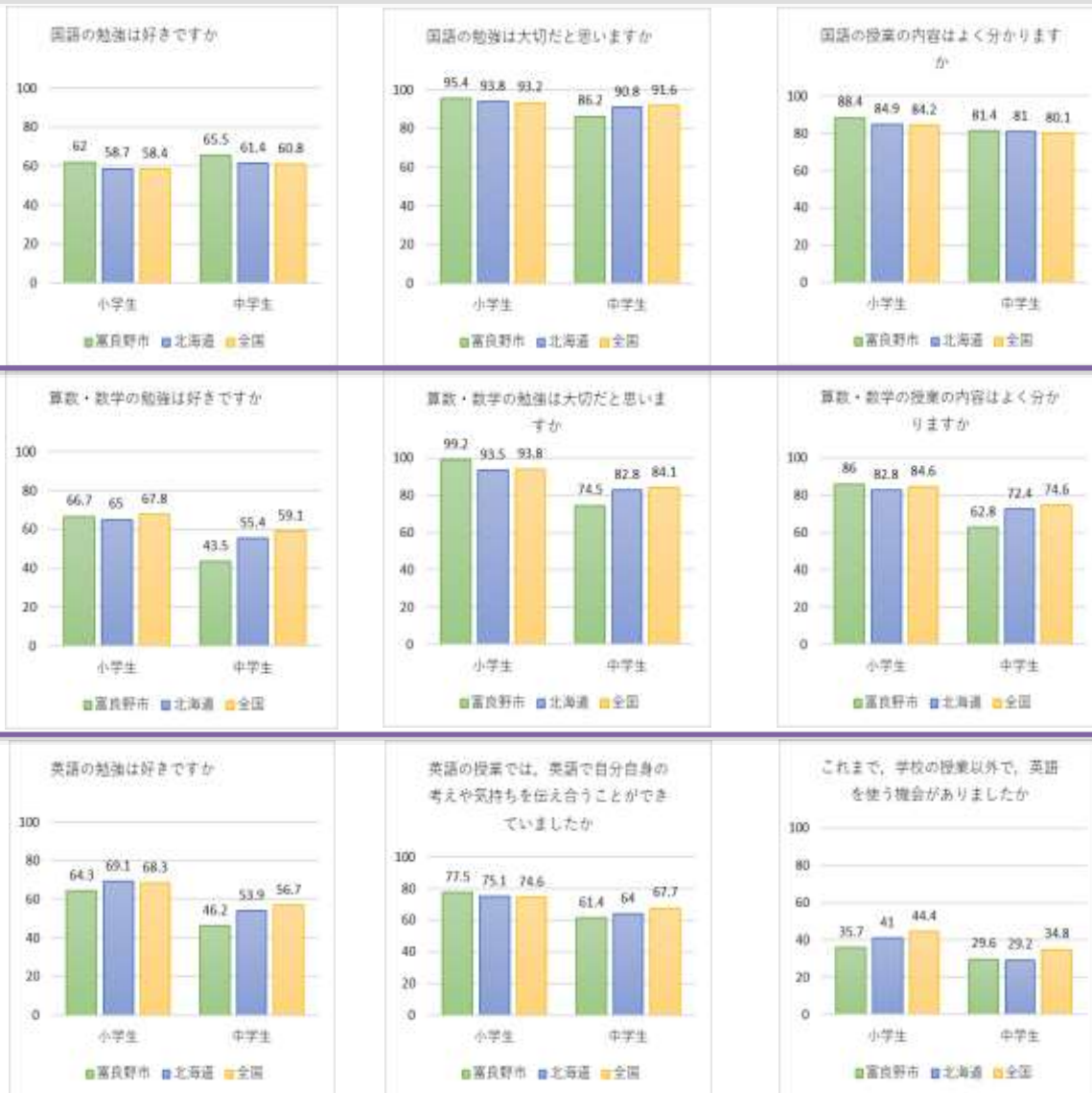
〔児童生徒質問紙〕



- ◆「普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強をしますか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で88.4%、中学生で85.5%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。
- ◆「学校が休みの日、1時間以上勉強をしますか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で65.2%、中学生で68.3%です。小学生では全国と比較して高い値ですが、中学生では全国と比較して低い値になっています。1日の生活習慣として、学習する習慣をつける必要があります。
- ◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生で86.1%、中学生で64.2%です。小中学生ともに全国と比較して高い値です。中学生は、日頃より家庭学習の習慣を身に付けるとともに1週間の時間割に応じたスケジュールを立てるなど計画的に学習できるよう支援する必要があります。

## (9) 各教科の学習状況

「児童生徒質問紙」



- ◆「国語の勉強が好きですか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で62%、中学生で65.5%です。小中学生ともに全国と比較して高い値です。
- ◆「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容は分かりますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小中学生とも80%以上です。
- ◆今後は、国語の興味関心を高められるよう、言語環境を整え、主体的に学習に取り組むことができるよう授業改善を図る必要があります。
- ◆「算数・数学の勉強が好きですか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で66.7%、中学生で43.5%です。小中学生ともに全国と比較して低い値です。
- ◆「算数・数学の勉強は大切だと思いますか」「算数・数学の授業の内容は分かりますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で99.2%・86%ですが、中学生で74.5%・62.8%です。
- ◆今後は、算数・数学の興味関心を一層高められるよう、日常生活の場面に即した問題から算数・数学の良さが感じられるよう工夫するなど、主体的に学習に取り組むことができるよう授業改善を図る必要があります。
- ◆「英語の勉強が好きですか」との質問について、回答した児童生徒の割合は、小学生で64.3%、中学生で46.2%です。小中学生ともに全国と比較して低い値です。
- ◆「英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合っていましたか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は小学生で77.5%、中学生で61.4%です。
- ◆今後は、英語の興味関心を一層高められるよう、CAN-DOリストを活用し、目指す子どもの姿を共有した授業改善を図るとともに、学校の授業以外で、英語を使う機会が増えるよう工夫する必要があります。

## 5 改善のポイント

学校では、子どもたち一人一人の学びをしっかりと支え、  
誰ひとり取り残さない教育を目指します

- 学校全体で学力向上に向けた取り組みを組織的に推進していくため「学力向上推進委員会」を組織し、子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図っていきます。
- 1時間ごとの授業を大切にし、授業ごとに身に付けるべき資質・能力を明確にし、単元を見通して到達させるための手立てを講じていきます。
- 根拠に基づいて考えを書いたり話したりする場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。
- 授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、定着の状況を把握し、実態に即した意図的な働きかけをしていきます。
- 児童生徒が「分かった、できた」を実感できるように授業の最後に「まとめ」と「振り返り」を位置付けていきます。
- 学校での学習の効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒や保護者に対して適切に支援するとともに、学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための家庭学習や『課題』を設定します。

## 6 保護者・地域の皆様へ

子どもの学力については、学校が責任をもって取り組んでおり、教員の指導力向上に向け授業公開や授業研究等、全力を挙げて推進しております。この大前提を押さえた上で、学校での学ぶ力を支えると共に、もっと大きな意味で、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、学校と家庭が力を合わせて、「家庭学習の習慣をつけるとともに、子どもの学びに対する興味や関心を広げること」が極めて大切です。

家庭学習を定着させるには、「学び」の土台となる「早寝早起きをする」「挨拶をする」「家事を分担する」などの家庭での教育が重要です。

進んで学ぼうとする力は、『子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日学習に取り組む』ことで育ちます。

大人はもう一度足もとを見直し、決してその時々気分や感情に流されず、大人としての責任を自覚して、家庭学習の充実を目指しましょう。改めるべきことは改め、当たり前のことは、当たり前のこととして推し進めるとともに、家庭を学びの環境に整えていきましょう。